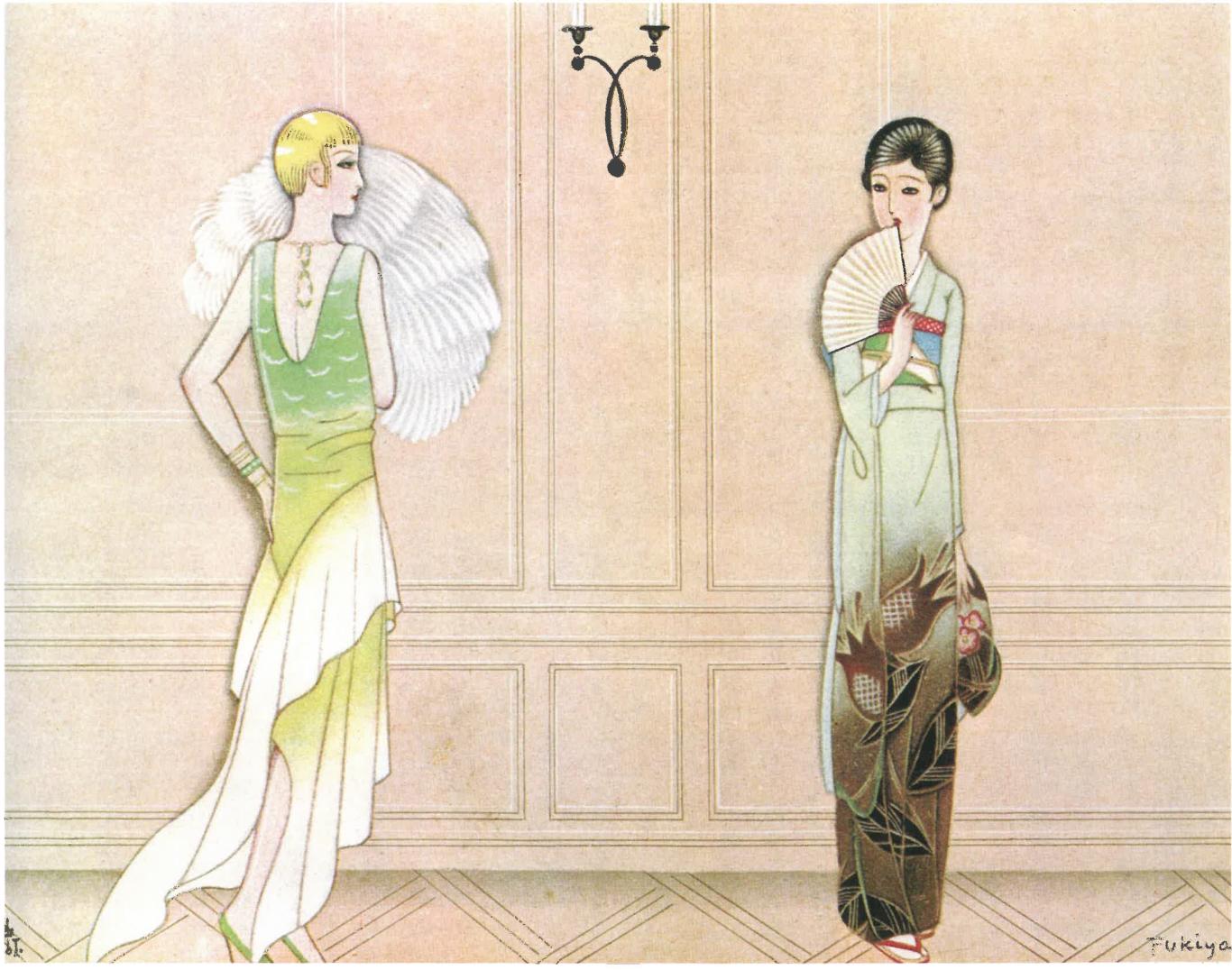


にいがた文化

創刊号

2016年3月



落谷虹児《異国の友と》 少女雑誌「令女界」1929年9月号付録絵はがき

Tukiyō

2015年5月には、虹児の渡仏90年を記念し、パリの日本文化会館で個展が開かれました。また9月から新発田市の記念館で凱旋展が開催。にいがた文化の記憶館では12月5日から16年2月14日まで「パリの落谷虹児」と題した企画展示を行い、好評を博しました。

竹久夢二に才能を見出され、少女雑誌の挿絵画家として名を馳せたのち、本格的な画家を目指して渡仏。サロン（パリの公募展）に9度入選するなど着実に画家の道を歩みましたが、経済的事情から4年弱で帰国しました。上の絵は虹児がパリで描いた最後の絵ともいわれ、原画は残っていません。絵はがき大流行の時代に雑誌の付録として印刷されたものですが、西洋の女性と日本の女性がシンプルな構図で対比的に描かれ、モダンなドレスや着物の柄も美しく印象的な作品です。帰国後虹児はパリ帰りの洗練された画風で、以前にも増して挿絵画家としての評判を高めていました。

大正から昭和にかけて圧倒的人気を誇った抒情画家・落谷虹児は新発田市出身です。童謡「花嫁人形」の詩人としても知られています。

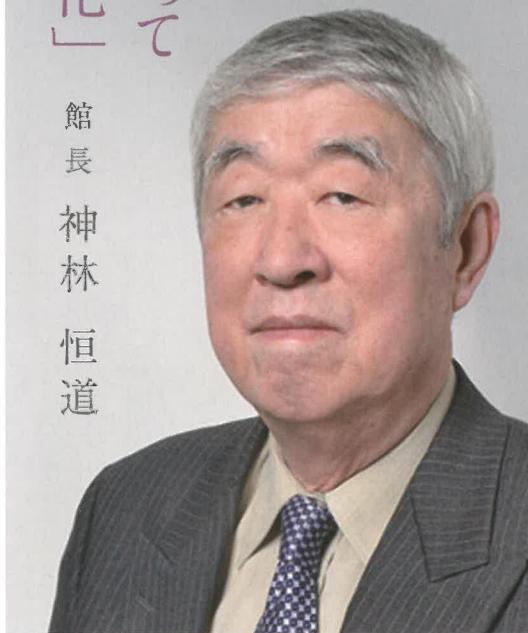
向けての新潟の文化的アイデンティティの創造にある。

残されたものであり、これを掘り起こし、後世に伝えるために創設されたのが「にいがた文化の記憶館」である。

発刊にあたつて

「新潟の文化」

館長 神林 恒道



新潟の文化とはと問われて、どのように答えたらよいのだろうか。とにかく新潟県は広大である。歴史に出てくる国名でいえば、越後と佐渡の二国からなっている。越後は、中越・上越・下越とそれに特色ある文化がある。この地方が一度だけ統一された時代があつた。それが戦国武将・上杉謙信による統治である。

だがその後は秀吉の時代から徳川の幕藩体制を通じて、越後十三藩とも称された分割統治が続いた結果、お互いに共有する文化意識、近代にいたつた。明治以降、行政区分では「新潟県」という枠組みでくられたものの、その実態は

依然として変わりはなかった。加賀の前田、仙台の伊達のような一国支配の大藩がなかつたために、新潟には観光の目玉になるような文化財がない。国宝は唯一、繩文時代の火焔型土器があるのみである。そのせいか、県民はある種の文化コンプレックスに陥っている。ところで文化とは何であろうか。文化の本質は創造力である。その視点からすれば、新潟は幕末から近代にかけて、さまざまな分野で多くの優れた人材を輩出してきたのである。あえていえば、新潟の文化の特色は「ものの文化」ではなくて「人の文化」であると言うことが出来る。その業績は形あるものとしてではなく、記憶として

開発以降は、従来の上方文化の影響に加えて、將軍のお膝元である江戸の文化と直接に結ばれることとなつた。いわば東西の文化の十字路に位置していたと言つてもよい。さらに五港の一つとして、いち早く近代化の恩恵に浴している。その証が県内の各地に開設された三十を超える、郷土の文化人を顕彰する記念館である。だがこれまで、その影響力あるいは発信力にはやはり限界があつたと言わざるを得ない。これらの施設を一代に語り伝えていくことから始まるのではなかろうか。これからも、地道ではあるが未来に繋がるこの文化活動にご支援をたまわりたいと、心より願う次第である。

「地方創生」は何よりも、まず郷土の文化の何たるかを知ることであり、その誇るべき伝統を若い世代に語り伝えていくことから始まるのではなかろうか。これからも、地道ではあるが未来に繋がるこの文化活動にご支援をたまわりたいと、心より願う次第である。

館」を位置づけようとして発足したのが「ネットワーク協議会」である。その究極の目標は、未来に

にいがた文化の記憶館

事業報告

平成25年度

にいがた

文化の記憶館 オープン

当館は平成25年6月4日に新潟日報メディアアシップ5階にオープンしました。良寛を筆頭に日本の近代化に貢献した159名の新潟県出身および縁の文化人を顕彰しています。



特別展示

藤蔭静樹と 遠藤実展



(平成25年6月4日～10月27日)



藤蔭静樹の舞扇。藤蔭流の紋が描かれた左の扇には歐文で書き込みがされている。



遠藤実の思い出がつまつた三種の神器
(オルガン、ギター、トランク)

「日本サッカーの源流 蹴鞠の装束展」

(10月29日～12月23日)

酒博士坂口謹一郎

(同上)

イベント

①館長講演

(平成25年6月4日)

②八一祭

(8月9日)

③蹴鞠の実演

(12月14～15日)

④鼎談

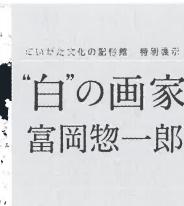
「小川未明童話の 新しい扉をひらく」

(平成26年2月11日)



平成26年度

特別展示



“白”的画家
富岡惣一郎

鈴木牧之
『北越雪譜』
天保8(1837)年
南魚沼市
トミオカホワイト
美術館蔵



富岡惣一郎
《信濃川・卯の木 D》
1984年

南魚沼市
トミオカホワイト
美術館蔵

にいがた文化の記憶館 特別展示 雪國の文人 鈴木牧之



(4月8日～6月15日)

「林家四代と良寛歌集展」

(9月6日～12月23日)

⑤「日本のアンデルセン 小川未明の世界」

(3月4～30日、会場 新潟県立図書館1階閲覧室)

「渡邊義雄 大和古寺」 「新潟の女性たち」 「新潟八一記念館 移転特別展」 「會津八一の奈良」

(8月1日～9月27日)

「歌集『鹿鳴集』の世界」

日本の文化をなった新潟人

「歌人・平出修」

(10月1日～10月30日)

「終戦を促した祖国愛
小柳胖、オーテイス・ケーリ、
ドナルド・キーン」

(10月9日～12月14日)

「酒に学ぶ」

坂口謹一郎と川上善兵衛
(11月1日～11月30日)

「富士を写す」

岡田紅陽から横山操まで…
(12月3日～平成27年1月12日)

「二人の詩人

堀口大學と西脇順二郎
(1月17日～3月29日)

イベント

① 作品解説会

「白」の世界 作品解説

（平成26年4月26日、講師：長谷部昇氏）

トミオカホワイト美術館元館長
長谷部昇氏を迎えて…

「富岡惣一郎の画業」

（5月11日、講師：内田義雄氏）

「日本の鉢子、世界の鉢子」

（7月1日、講師：神林館長）

「講演会 「反逆の系譜」

（北一輝と大杉栄）

（10月12日、講師：神林館長）

「新潟と

「東アジアの近現代の書」

（8月1日～9月9日）

出演：柳本幸子氏（ソプラノ）、
奥村和雄氏（ヴァイオリン）、経麻朗氏（ギター）

「にいがたの歌と音楽 ～童謡や唱歌を中心にして～」

（平成27年4月23日）

①

コンサート

イベント

④ 講演会

「日本ワインぶどうの父・
川上善兵衛と坂口謹一郎
ワイン&トーク」

（11月8～9日、講師：棚橋博史氏）

アートコミュニケーション2014 スティアシップ×にいがた文化の記憶館

5

アートコミュニケーション2014
スティアシップ×にいがた文化の記憶館

「日本ワインぶどうの父・ 川上善兵衛と坂口謹一郎 ワイン&トーク」

（10月19日～10月30日）

「岡倉天心とにいがたの画家 —小山正太郎・尾竹兄弟・ 小林古径—」

（9月19日～11月29日）

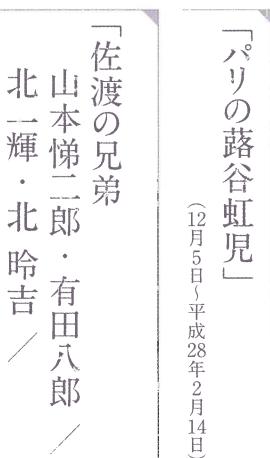
「パリの蕗谷虹児」

（12月5日～平成28年2月14日）

「佐渡の兄弟

山本悌二郎・有田八郎／ 北一輝・北暎吉／ 土田麦僊・土田杏村」

（2月27日～4月17日）



「酒に学ぶ」

坂口謹一郎と川上善兵衛
(11月1日～11月30日)

「富士を写す」

岡田紅陽から横山操まで…
(12月3日～平成27年1月12日)

「二人の詩人

堀口大學と西脇順二郎
(1月17日～3月29日)

特別展示

6 見いちらクチャード

学芸員などによる解説会

（毎月第4土曜日14時～14時30分）

7 見いちらクチャード

学芸員などによる解説会

（毎月第4土曜日14時～14時30分）



北一輝遺愛のベスト
北一輝・暎吉両先生
彰徳碑建設会蔵



土田麦僊
《三人の舞妓 大下絵》
1919(大正8)年
佐渡市立佐渡博物館蔵

イベント

①

作品解説会

「白」の世界 作品解説

（平成26年4月26日、講師：長谷部昇氏）

トミオカホワイト美術館元館長
長谷部昇氏を迎えて…

「富岡惣一郎の画業」

（5月11日、講師：内田義雄氏）

③

講演会

「日本の鉢子、世界の鉢子」

（7月1日、講師：神林館長）

④

講演会

「反逆の系譜」

（北一輝と大杉栄）

（10月12日、講師：神林館長）

アートコミュニケーション2014 スティアシップ×にいがた文化の記憶館

石山響一郎氏（ピアノ）、
コラスおおがた（女声）、
Coro Muraccini（混声）

「終戦を促した祖国愛 小柳胖、オーテイス・ケーリ、 ドナルド・キーン」

（10月9日～12月14日）

「酒に学ぶ」

坂口謹一郎と川上善兵衛
(11月1日～11月30日)

「富士を写す」

岡田紅陽から横山操まで…
(12月3日～平成27年1月12日)

「二人の詩人

堀口大學と西脇順二郎
(1月17日～3月29日)

イベント

①

作品解説会

「白」の世界 作品解説

（平成26年4月26日、講師：長谷部昇氏）

トミオカホワイト美術館元館長
長谷部昇氏を迎えて…

「富岡惣一郎の画業」

（5月11日、講師：内田義雄氏）

③

講演会

「日本の鉢子、世界の鉢子」

（7月1日、講師：神林館長）

④

講演会

「反逆の系譜」

（北一輝と大杉栄）

（10月12日、講師：神林館長）

⑤

講演会

「日本の鉢子、世界の鉢子」

（7月1日、講師：神林館長）

⑥

講演会

「反逆の系譜」

（北一輝と大杉栄）

（10月12日、講師：神林館長）

アートコミュニケーション2014 スティアシップ×にいがた文化の記憶館

にいがた文化

法律と文学の両道を歩んだ平出修

平出修研究会主宰 平出 洪

一 与謝野鉄幹の新詩社に



平出修は明治

11年4月3日、
新潟県中蒲原郡
石山村猿ヶ馬場

平出修も与謝野寛の依頼を受けて
新宮の被告二人の弁護人となり、
鷗外から多くの示唆を得たようだ。

その弁論は多くの被告に感銘を与
えたが、その甲斐も無く二十六名
の被告中十二名が死刑に処せられ
た。しかも今日の研究では殆どが
無実であった事が判明している。

平出は、今は「緘默を守らねばな
らぬ。」としたが、大正2年になり

事件に題材を探った小説「畜生道」
と縁談が纏まり明治33年9月に高
田へ転居、平出家に入籍して以後
は平出修と名乗り、その翌年には
新妻を伴って上京し明治法律学校
(現明治大学)に入学、明治36年7
月卒業し弁護士となつた。そして
鉄幹・与謝野寛の主宰する東京新
詩社に加入、文学と法律の両道を
歩むことになった。

二 大逆事件の弁護を担う

明治43年5月に発覚した大逆事
件は明治末期の社会を震撼させた。



敷包みに包まれて秘蔵され、終戦後
迄、目の目を見ることは無かつた。

三 東京と新潟で活躍した顕彰

長男）が研究会主宰を引き継ぎ、中
川滋（彬の長男）と協力して運営に
当たっている。現在の会員は約六十
人である。

これと並行して修が新婚生活を

送った新潟県の高田（現上越市）で

は昭和54年1月27日より歌人・笠原
さい子氏主宰、童話作家杉みき子氏

講師で隔月に「高田平出修の会」が

開かれている。また平成26年は平出

修没後百年に当たつたので、出身地

の新潟市石山地区で3月から連続五

回の講演会、そして締め括りとして

7月13日、石山地区東区プラザ・ホー
ル（新潟市東区）で「東区の偉人」

と平出彬（修の三男）を中心、「平

出修研究会」が発足、以後年二回の

ペースで東京に於いて研究会を催し

ている。同56年7月30日には『定本
平出修集』第三巻が、平成27年12月

25日には『定本平出修集』第四巻が

刊行され、修の主要な作品はほぼ網
羅された。昭和60年11月25日には歿

後七十周年を記念して『平出修とそ

の時代』を、平成7年4月26日には

歿後八十周年記念で『大逆事件に挑
んだロマンチスト』を刊行した。そ

して彬の逝去により筆者（禾の

同28年4月、平出修研究会の事
務局を新潟市に移転する。これを

機に平出修の出身地新潟との協力

を一層充実させていきたい。

平成28年度 おすすめの企画展および近況①（順不同）

① 卷菱湖記念時代館

〒950-0015

新潟市東区河渡庚296-33

TEL 025-271-9567

卷菱湖習字通信教育

今秋より、「卷菱湖習字通信教育」を開始いたします。最大の特徴は、卷菱湖の文字によるデジタル添削です。Webにて開始いたしますので、ご期待ください。詳しくは、お問い合わせください。

② 新潟県立歴史博物館

〒940-2035

長岡市関原町1丁目字権現堂2247-2

TEL 0258-47-6130

おふだにねがいを——呪符——

会期 4月23日(土)～6月5日(日)

古来、人々は何か願い事があると「おふだ(お札)＝呪符」を作り、それにすがってきました。本展覧会では、様々な呪符を通して人々の祈りやまじないのあり方を、歴史学・考古学・民俗学など様々な視点から明らかにしていきます。

③ 良寛の里美術館

〒949-4525 長岡市島崎3938

TEL 02558-743700

開館25周年特別展 「良寛とその敬慕者

村山半牧と吉野秀雄展

会期 9月14日(水)～11月6日(日)

村山半牧はいち早く良寛文芸に注目した画家である。吉野秀雄は會津八唯一の門人で、独自の良寛觀のなかで優れた著述を残した。両者の書画作を良寛とともに並べ、江戸から昭和にいたる本県文化史の流れを味わってもらいます。

④ 新潟大学旭町学術資料展示館

〒951-8122

新潟市中央区旭町通2-746

TEL 025-227-2260

新潟市東区牡丹山諏訪神社 古墳第2次調査成果展

会期 5月予定

新潟市歴史博物館に所蔵されている円筒埴輪片を手がかりに、牡丹山諏訪神社現地を踏査し埴輪片を発見しました。考古学実習の一環で発掘調査を行い、新潟県初の円筒埴輪が出土しました。昨年度の調査の成果を展示します。

⑤ 曽我・平澤記念館

〒950-1261 新潟市南区味方2131

TEL 025-373-6600

常設展示

会期 通年(月曜日休館 月曜日が祝日の場合は翌日が休館)

当記念館は旧味方村名譽村民・曾我量深(大谷大学学長)、平澤興(京都大学総長)おふたりの愛用品や出版物他、功績を讃える遺品を数多く展示するとともに、ふるさと旧味方村を広く紹介するため平成3年10月に完成しました。

⑥ 新潟県立近代美術館

〒940-2083 長岡市千秋3-278-14

TEL 0258-28-4111

モネ展 マルモッタン・モネ美術館所蔵

会期 6月4日(土)～8月21日(日)

印象派の巨匠モネが10代で描いたカリカチュアから最晩年のジヴエルニー連作までの代表作に加え、モネが収集した友人たちの作品など90点を展示。まさにモネの全貌をたどる究極の展覧会。あなたの知らないモネと出会う。

⑦ 南魚沼市 トミオカホワイト美術館

〒949-7124

南魚沼市上葉師堂142

TEL 025-775-3646

富岡惣一郎 幽玄の美

会期 3月12日(土)～7月11日(月)

洋画家・富岡惣一郎は雪の白に魅了され「白の世界」を表現することに没頭しました。今回の企画展では、霧に包まれた桂林の山河や上空から鳥の目になつてとらえた険しい雪山など、奥深く莊厳ともいえる自然美を展示了いたします。

⑧ 新潟市會津八一記念館

〒950-0088

新潟市中央区万代3-1-1

新潟日報メディアシップ5階

TEL 025-282-7612

夏 會津八一没後60年記念 （究極の趣味人）

會津八一と川喜田半泥子

秋 小林正樹生誕100年 小林正樹と會津八一

会期 夏 7月15日(金)～9月25日(日)

秋 10月7日(金)～12月11日(日)

今年は八一没後60年。八一と同時代に活躍し交流を結んだ実業家で陶芸家の川喜田半泥子との2人展を夏を開く。当館と石水博物館との所蔵品を交換展示する。秋は映画監督で八一の教え子小林正樹生誕100年記念企画展。

⑨ 前島記念館

〒943-0119

上越市下池部1317-1

TEL 025-524-5550

常設展のみ。年度内に展示替えを予定しています。

平成28年度 おすすめの企画展および近況②（順不同）

⑩ 遠藤実記念館「実唱館」

〒953-0012

新潟市西蒲区越前浜691-3-1
TEL 0256-772777

第二回 遠藤実大賞2016

会期 12月4日(日)～12月6日(火)

歌い継ごう
遠藤実メロディー「第二回 遠藤実大賞2016」
準決勝 12月4日 日報ホール
決勝 12月6日 新潟テルサ
全国予選会開催 DAMともサイト精密採点により応募可
歌唱曲は遠藤実作品に限ります。

⑪ 小川未明文学館

〒943-0835 上越市本城町8-30 高田図書館内
TEL 025-523-1083

(仮)小川未明12冊の本展

会期 10月～11月

日本のアンデルセンとも称され、約1200編もの童話を書いた上越市出身の童話作家、小川未明。その中の珠玉の童話12作を、現代の有名な装画家・装丁家が協力し仕上げた、フランス装仕立ての絵本とその原画展です。

⑫ 良寛記念館

〒949-4342 出雲崎町大字米田1
TEL 0258-7823370

⑯ 吉田文庫「ちあき」の会

会期 10月1日(土)～12月27日(火)

良寛記念館収蔵の良寛遺墨の中から名品と呼び声の高い作品を展示いたします。新たな発見として良寛最晩年の筆『南無不可思議光如来(九字名号)』を賞鑑家大久保裕司氏のご協力のもと初公開いたします。

⑬ 西脇順三郎を偲ぶ会

〒947-0031 小千谷市土川1-3-7 小千谷市立図書館内
TEL 0258-822774

企画事業 記念講演会 演題「西脇的アタラクシアーネ、永遠、 その思想的背景」

日時 6月4日(土) 午後2時から(90分程度)
会場 小千谷市民会館4階大会議室
講師 伊藤 勲氏 (愛知大学大学院文学研究科教授)
著作に『ベイタリアン西脇順三郎』
『ウォルター・ペイター』他多数。

⑭ 小林古径記念美術館

〒943-0835 上越市本城町7-7 高田公園内
TEL 025-523-8680

企画展「水をみつめて —新潟県立近代美術館・ 万代島美術館所蔵品展」

会期 7月23日(土)～9月4日(日)

水をテーマに、両館の所蔵品から新潟ゆかりの作家作品を中心として近現代の日本画・洋画および工芸作品を展示します。流れる、光る、映る—芸術作品に表れたさまざまな水の表現を紹介します。

⑮ 第22回「堀口大學講演会」

〒940-0021 長岡市城岡1-6-22 佐藤正一代表
TEL 0258-366055

第22回「堀口大學講演会」

日時 5月21日(土) 午後2時～3時30分

毎年2月末～3月に吉田千秋命日のイベントとして睡蓮忌を開催します。1日だけですが遺品の展示やコンサート等を行います。吉田千秋生家は国登録有形文化財ですが(通常は非公開)、この日のみ一般の入場が可能となります。

⑯ 雪梁舍美術館

〒950-1101 新潟市西区山田4-5-1
TEL 0253-7711888

第18回雪梁舍フィレンツエ賞展

会期 8月7日(日)～9月25日(日)

新鋭作家の発掘と育成を目的に、全国から50歳以下の具象系作家の絵画作品を募集し入選作品を展示します。大賞受賞者には3ヶ月間フィレンツエ美術アカデミア賞受賞者は1ヶ月間のフィレンツエ留学を授与します。

⑰ 糸魚川歴史民俗資料館 『相馬御風記念館』

〒941-0056 糸魚川市)の宮1-2-2
TEL 025-552-7471

⑯ 良寛と御風展(仮)

会期 6月上旬～8月上旬

今年は御風が大正5年に糸魚川に帰住、良寛研究を開始して百周年であり、6月には全国良寛会糸魚川大会が開催されます。企画展も良寛と御風をテーマに、両者や関係者の遺墨、御風の良寛研究資料を展示します。

⑯ 第22回「堀口大學講演会」

〒940-0021 長岡市城岡1-6-22 佐藤正一代表
TEL 0258-366055

「春の講演会」では直木賞作家の出久根達郎氏が、「堀口大學文学の魅力」と題して行います。来年1月上旬には「冬の講演会」を行な予定です。講師・演題未定。また、機関紙「月下」第19、20号を発刊予定。

平成28年度 おすすめの企画展および近況③（順不同）

⑯ 柏崎ふるさと人物館

〒945-0051 柏崎市東本町1-4-11

TEL 0257-21-8817

（仮）柏崎の近代化と都市公園 — 霜田大次郎の業績とともに —

会期 10月15日（土）～11月27日（日）予定

柏崎市の都市公園について、その歴史を柏崎の近代化に貢献した先人の業績とともに紹介します。あわせて、都市公園に特徴的なモニュメント（造園彫刻）に挑んだ郷土出身の霜田大次郎の作品も展示します。

⑰ 鈴木牧之記念館

〒949-6408 南魚沼市塩沢1-1-2-22

TEL 0257-82-9860

夏休みナットク体験 「芋引き実演・体験」 「草木染め体験」

会期 8月4日（木）～8月6日（土）

3日間限定で、ユネスコ無形文化遺産・国の重要無形文化財である「越後上布」の制作工程の一部「芋引き」の実演と体験を行います。「草木染め体験」はハンカチなどに輪ゴムや割りばしで模様をつけ、草木の染料で染めます。参加費は1枚300円。詳しくはお問い合わせください。

⑱ ドナルド・キーン・センター柏崎

〒945-0063 相崎市諏訪町10-17

特別企画展 「写真で綴るドナルド・キーンのあゆみ」

会期 3月10日（木）～8月7日（日）

キーン先生の幼少期からのあゆみを写真で振り返ります。多くの出会いに彩られて、日本文学研究への筋の想いで満ちている先生の人生を、初公開の資料を交えて、親しみやすく紹介します。

㉑ 湯沢町歴史民俗資料館 「雪国館」

〒949-6101 湯沢町大字湯沢354-1

TEL 0257-84-3965

2016春季特別展「湯沢桜名所」めぐり

会期 3月10日（木）～5月31日（火）

春の雪解けとともに咲き誇る「花」のなかから「桜」をテーマに「湯沢桜名所」としてパネル展示を行います。開花期間の短い桜の見ごろを「雪国館」でぜひ堪能ください。

㉒ 全国良寛会

記念講演会と舞楽

日時 6月11日（土）午後2時30分より

会場 糸魚川市民会館 大ホール

新潟大学教授・岡村鉄琴先生の「ようこそ！御風ワールドへ」と題する講演と、国指定重要無形文化財・天津神社の舞楽。無料。

㉓ 春城の隨筆を読む会

日時 4月26日（火）午前10時より

会場 農業資料館。200円。
代醉録・鯨肝録・春城談叢について次の7回目からは「文字墨客を語る」。

㉔ 平出修研究会

講演会（事務局移転記念・第1回新潟開催）

日時 6月30日（木）午後1時30分より
会場 シルバーピア石山（JR東新潟駅下車）

会期 12月13日（火）～25日（日）
会場 あらきギャラリー（新潟市中央区西堀通5
TEL 0252-228-2090）

本研究会は永年、東京都内で活動してまいりましたが4月から事務局を新潟市内に移転し、修の生誕地に全国の会員が集まる形態となります。市民の皆様のご来場をお待ちしております。

中央で活躍の作家や新潟県内の作家の協力を得て、絵画・版画・書・工芸などの美術作品を、市価より安いチャリティ価格で販売し、収益金を福祉施設などに寄贈する。

㉕ 春城会

事務局 〒959-2024 阿賀野市中島町6-26 中村方

0250-62-7038

第3回「春城忌」（今年は73回忌）

日時 4月21日（木）午後1時より

会場 新発田市五十公野・淨念寺

㉖ 新潟良寛会

（お問い合わせ先 研考古堂 柳本 TEL 025-229-4058）

記念講演会

日時 4月24日（日）午後2時より
会場 新潟グランドホテル

良寛研究家・小島正芳先生の「若き良寛の肖像」。無料。

良寛慈愛の会チャリティ展

会期 12月13日（火）～25日（日）

会場 あらきギャラリー（新潟市中央区西堀通5
TEL 0252-228-2090）

平成28年度 おすすめの企画展および近況④（順不同）

㉗ 安吾 風の館（旧市長公舎）

〒951-8104

新潟市中央区西大畑町5927-9
TEL 025-222-3062

今年度の企画展

4～7月は、「風博士」と「堕落論」とその時代」、8～11月には「第4回旅高麗神社の祭の笛」、12月～2017年3月には「安吾のふるると」の各展を開催。また4月には「春の朗読会」を、8月には「第7回安吾講座」を行います。

㉘ 上越市立総合博物館

〒943-0835 上越市本城町7-7 高田公園内
TEL 025-524-3120

㉙ 大収藏品展—総合博物館FINAL

会期 7月23日(土)～11月6日(日)

前期～7月23日～9月4日
後期～9月17日～11月6日

収集資料を紹介する上越市立総合博物館としての最後の企画展。前期は「中屋敷町山車飾・麒麟」などの歴史民俗資料を、後期は「御所参内・聚楽第行幸図屏風」などの美術資料を中心いて展示します。

㉚ 魚沼市 宮格二記念館

〒949-7413 魚沼市堀之内1-1-7-6
TEL 025-794-3800

「コスマスに集う歌人たち」

会期 5月14日(土)～平成29年3月末日

没後30年を記念し、現在活躍中の歌人を中心、「コスマスに集う歌人たち」(仮称)として関連資料を展示。節目の年にあたって詠まれた短歌なども展示予定です。

㉛ 路谷虹児記念館

〒957-0053

新発田市中央町4丁目11番7号
TEL 025-4-231-0113

著名人が選んだ 「私の愛する路谷虹児」展

会期 4月14日(木)～9月11日(日)

作家、詩人、芸能人、スポーツ選手など幅広いジャンルから個人的にお選めする路谷虹児作品を選んでいただきました。選んだ作品への想いや、個人との深い関わりなど、ご本人のコメントも添えてご紹介します。

㉜ 一般財団法人 駒形十吉記念美術館

〒940-0033 長岡市今朝白2-1-4
TEL 0258-356111

会期 3月19日(土)～8月21日(日)
当連合会は市・市教委と共に、当市出身の画家布川勝三(1905～1999)の画業を偲び、市が所蔵する約1000点の素描の中から風景、静物、人物画40点を選び、油彩画も加え、勝三独自の世界を紹介します。

㉝ 伝統をつむぐ工芸展

〒940-0033 長岡市今朝白2-1-4
TEL 0258-356111

会期 3月19日(土)～8月21日(日)
当連合会は市・市教委と共に、当市出身の画家布川勝三(1905～1999)の画業を偲び、市が所蔵する約1000点の素描の中から風景、静物、人物画40点を選び、油彩画も加え、勝三独自の世界を紹介します。

㉞ 新潟市歴史博物館みなしとびあ

〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10
TEL 025-225-6111

第四国立銀行展

会期 4月9日(土)～5月29日(日)

明治7年、新潟県最初の銀行である第四国立銀行が営業を開始しました。国立銀行時代の「第四」は、現在も第四銀行の名に引き継がれています。本展覧会では第四銀行を軸に、新潟の近代の発展やその歩みを紹介します。

㉟ 新発田市文化団体連合会

〒957-0053

新発田市生涯学習センター新発田市中央公民館事務室
TEL 025-4-267-1911

新発田市・新アートコレクション展 Part IV 「布川勝三 素描作品を中心とした美術展」

会期 11月22日(火)～11月27日(日)

会場 新発田市生涯学習センター

新アートコレクション展 Part IV 「布川勝三 素描作品を中心とした美術展」

会期 11月22日(火)～11月27日(日)

本年は当館の設立70周年。近年展示していない所蔵作品を積極的に取り入れて季節に合わせた日本画と工芸作品の展示を行う(注:会期中作品入れ替えあり)。主な出品作家は、岩田藤七と、羽下修三など。

㉞ 一般財団法人 北方文化博物館

〒950-0205 新潟市江南区沢海2-15-25
TEL 025-385-2001

日本画と工芸 コレクション展Ⅰ・Ⅱ

会期 4月8日(金)～8月31日(水)

本年は当館の設立70周年。近年展示していない所蔵作品を積極的に取り入れて季節に合わせた日本画と工芸作品の展示を行う(注:会期中作品入れ替えあり)。主な出品作家は、岩田藤七と、羽下修三など。



25～27年度企画展

協同の顕彰館・団体

「遠藤実記念館 実唱館」遠藤実

（1994）にオープンしました。遠藤実は平成6年振り返るとともに、資料や展示品、それにまつわる数々のエピソードをとおして、人物像を紹介しています。

また、映像や視聴を通じて遠藤実が残した数々の功績と音楽の素晴らしさを感じることができます。カラオケコーナーで歌も歌えます。

「新潟県立近代美術館」亀倉雄策

新潟県立近代美術館は地元の収集家による大光コレクションを軸とした近代の流れを見通せる国内作品や、日本の近代美術に関わりのあるバルビゾン派やナビ派など19世紀の西洋美術、その他、地元に密着した調査研究のものと、県出身または県ゆかりの作家の作品や資料を収集し、コレクション展や企画展を通して紹介しています。

新潟県立近代美術館は地元の収集家による大光コレクションを軸とした近代の流れを見通せる国内作品や、日本の近代美術に関わりのあるバルビゾン派やナビ派など19世紀の西洋美術、その他、地元に密着した調査研究のものと、県出身または県ゆかりの作家の作品や資料を収集し、コレクション展や企画展を通して紹介しています。

「小川未明文学館」小川未明

小川未明文学館では、日本児童文学の父・小川未明の業績と作品はもとより、生い立ち、作品が生まれた時代背景などを紹介しているほか、子どもたちに未明童話を体験してもらえるしかも用意しています。また、未明に関する資料を収集、研究し、公開しています。多くの方に未明童話を親しんでもらうため、毎月第2、4日曜にボランティアによるおはなし会を開催しています。

「一般社団法人杉本鉄子研究会」The Etsu Inagaki Sugimoto Center

南魚沼市トミオカホワイト美術館では、新潟県・高田生まれの富岡惣一郎（1922-94）の油彩画「白の世界シリーズ」を收藏、常設展示しています。富岡は自ら開発した油絵具「トミオカホワイト」と、刀鍛冶に特注した長大ペインティングナイフを用いて、国内外の雪国の世界を描きました。「雪国に生まれた作品は雪国に還す」という画家の長年の念願がかないました。1990年の初冬に八海山の麓に開館しました。

「鈴木牧之記念館」鈴木牧之

鈴木牧之の記念館では、鈴木牧之（1770-1842）が著述し、江戸時代後期にベストセラーとなった「北越雪譜」などの著作物や、牧之の遺墨、交遊者との書簡などを所蔵、常設展示しています。同館では雪国の文化を伝えるため、民具や雪崩1999年に設立された「亀倉雄策賞」受賞作品も所蔵するなど、そのコレクションは多岐にわたります。亀倉は新潟県立近代美術館のシンボルマークやロゴタイプを手掛けられています。

「南魚沼市トミオカホワイト美術館」富岡惣一郎

坂口記念館には坂口博士の業績と人物像がわかる酒杜り館、「坂口家の旧家の様子を再現した「樂縫庵（らくほうあん）」、博士と文化人蔵人と交流空間「留春亭（るしゅんてい）」があります。また、敷地内の「雪椿園（ゆきづばきえん）」には、博士がこよなく愛した雪椿が約190本植えられており、雪椿を詠んだ歌碑が残されています。

「坂口記念館 樂縫庵 坂口謹一郎」

新潟市の県立鳥屋野潟公園の一角にある、自然豊かな図書館です。大正4年の創立時から収集してきた上杉謙信や良寛から現代人まで新潟県人関係資料など、11万冊以上の郷土コレクションがあります。同館ホームページで公開している越後佐渡デジタルライブラリーでは、県内の歴史的に貴重な郷土資料も画像等で提供しており、当館と県立文書館のほか、県内の図書館・博物館の資料も併せてご覧になります。

「新潟県立図書館 郷土コレクション」

三条市歴史民俗産業資料館は、三条市初の国登録有形文化財「武徳館（昭和10年竣工）」を利用して、常設展や企画展を開催しています。常設展では三条の人々の暮らしや産業の歴史の紹介のほか、名譽市民の岩田正巳（日本画家）、渡邊義雄（写真家）、小林ハル（簪女）も紹介しています。また年に数回開催する企画展は、遺跡発掘速報展や地域ゆかりの作家の作品展など、幅広いテーマで展開しています。

「三条市歴史民俗産業資料館」岩田正巳・渡邊義雄

新潟市出身の會津八一（1881-1956）は、近代最後の文人と呼ばれ、歌人、書家、東洋美術史学者として、多分野で活躍しました。新潟市會津八一記念館は、1975（昭和50年4月、八一が晩年過ごした新潟市内に残された作品資料を中心に、市民や門下生らの尽力により開館した博物館です。2014（平成26）年8月に新潟市中心街、新潟日報メディアシップ5階に移転し、より多角的な顕彰活動を進めています。

「新潟市會津八一記念館」會津八一

日本歴史地理学の先達で、「大日本地名辞書」の著者として知られる吉田東伍を記念して誕生日に設置された博物館です。小規模ですが、現代に生きる東伍の業績を網羅、集積する日本で唯一の専門博物館として、情報発信や地域学習機会などを提供する「開かれた博物館」です。館内は東伍の著作や遺品などを中心に構成された常設展示や、東伍の著作を閲覧できるワークスペースなど、東伍が終生こだわった「郷土」について考えることができる施設です。

「阿賀野市立吉田東伍記念博物館」吉田東伍

燕市にある株式会社曙産業の創業者・大山治郎が、ものづくりに感性をとの思いから收集した作品（日本画、洋画、彫刻、工芸など）約300点を広く公開するため、平成22年7月に燕市井土巻に「大山治郎コレクション美術館」を開館しました。館内では横山大観、東山魁夷、中島千波など著名画家や若手作家の作品を40点ほど展示しています。併設のピストロ&cafe六朝館ではお食事なども楽しめます。

「大山治郎コレクション美術館」土田麦僕、横山操など

株式会社岩の原葡萄園の敷地内にある川上善兵衛記念館は、平成26年10月にリニューアルオープニングしました。同館2階には、岩の原葡萄園創業者で「日本ワインの父」といわれる川上善兵衛を顕彰した「川上善兵衛資料室」があり、善兵衛が取り組んだぶどうの品種交配やワインづくりの歴史を紹介しています。また、「善兵衛と鷗外コトナー」では、森鷗外が善兵衛に送った手紙（大正6年1月8日付）を展示して一人の交流も紹介しています。

「川上善兵衛資料館」川上善兵衛

昭和53年、小千谷市立図書館の開館とともに「西脇順三郎記念室」が開設されました。西脇所蔵の洋書（約1200冊）や「Spectrum」などの著書、「Ambarvalia」「旅人かへらず」などの詩集や原稿、絵画作品、遺品の一部を展示しています。また、記念画廊では、小千谷市が所蔵している約60点所蔵している西脇が描いた絵画のうち、約15点を展示しています。

「小千谷市立図書館 西脇順三郎記念室」西脇順三郎

平成28年度

にいがた文化の記憶館 展示のご案内

企画展示

4月29日(金・祝)～7月3日(日)

氣骨の人～越後人のねばり

鈴木牧之・吉田東伍・諸橋轍次、

原久一郎

7月15日(金)～9月25日(日)

會津八一没後60年記念【第2会場】

川喜田半泥子

※会期中、パスポート及び招待券で当館(第2会場)をご観覧できます。

前期

4月29日(金・祝)～9月25日(日)

「文学」、「中国学」、「反骨の系譜」、「美術」

後期

10月4日(火)～平成29年3月26日(日)

「文学」、「反骨の系譜」、「新潟の女性たち」、「医学」

毎月4日(火)～11月27日(日)
12月6日(火)～平成29年1月29(日)

月いちレクチャード

月いちレクチャード

月いちレクチャード

月いちレクチャード

青山杉作と俳優座

2月7日(火)～3月26日(日)

4月30日、5月28日、6月25日、
7月23日、8月27日、9月24日、
10月22日、11月26日、12月24日、
平成29年
1月28日、2月25日、3月25日

※企画展示名は仮称です。

会期や事業の日程や内容などは
変更することがあります。

常設展示

小林古径記念美術館

文化人—小林古径

上越市高田公園内にある小林古径記念美術館は、2002(平成14)年、上越市立総合博物館と施設を共有して開館しました。古径の初期の写生や画稿、模写などを含めた約1,600点の作品や資料、ゆかりの品々を収蔵し、年に3～4回の展覧会を開催しています。また生前、古径が暮らした東京都大田区南馬込の自宅兼画室(吉田五十八設計)が移築・復原され、公開されています。

新潟市潟東樋口記念美術館

新潟市潟東歴史民俗資料館
尾竹越堂・竹坡・国觀

旧潟東村(現新潟市西蒲区)出身で東京青果卸売人協会会長の樋口顯嗣(けんじ)氏が収集した美術品を旧潟東村に寄贈したこと为契机に、1970(昭和45)年12月、潟東樋口記念美術館が開館しました。同年、樋口は旧潟東村名誉村民に認定されています。同じ敷地内にある新潟市潟東歴史民俗資料館とともに、常設展示と年1回の特別展を開催しています。

佐渡市立佐渡博物館

1957(昭和32)年に開館した佐渡博物館は、歴史・民俗・考古・美術工芸・芸能・動物・植物・地質・産業などの部門で1万点以上の資料を収蔵しています。なかでも、日本画家土田麦僊の遺族から寄贈された下絵や素描、写生帖など533点の資料は特筆に値します。

2014(平成26)年4月、運営母体が財団から佐渡市へと移り、佐渡金銀山や佐渡ジオパークの発信も含め、佐渡の自然や歴史、文化など佐渡学を学べる総合博物館として生まれ変わりました。

落谷虹児記念館

新発田市出身の抒情画家、落谷虹児を顕彰するため1987(昭和62)年に開館しました。落谷家から寄贈された原画800余点を柱に、直筆原稿、書籍、印刷物、その他資料3000余点を所蔵。常設展示に加え、年数回の企画展を開催しています。

建築は世田谷美術館の設計で芸術院賞を受賞した内井昭彦建築設計事務所が担当。「記念館そのもので虹児の抒情世界を具現したい」との思いから作られ、1992年公共建築賞の優秀賞を受賞しました。また98年には国の公共建築百選に選ばれました。

あ と が き

○県内の文化回廊に：平成25年6月、にいがた文化の記憶館は県内に散在する偉人顕彰館や顕彰団体のインフォメーションセンターになるべくしてスタートしました。当然、当館のミニ企画展の展示数の少なさに満足できず、より詳しく鑑賞勉強したい方には各地の顕彰館や歴史博物館に向かっていただき、結果として県内の文化回廊づくりに結実することを願っています。

○人物相関図：偉人も一人で偉大な事業を成し遂げたわけではありません。そこには周囲の人々による指導や援助があります。当館は偉人を巡る「人物相関図」をできるだけ作成し、偉人を立体的に理解いただき、偉大な人物が多くの方々の協力で勉強したい方には各地の顕彰館や歴史博物館に向かっていただき、結果として県内の文化回廊づくりに結実することを願っています。

○顕彰館：偉人も一人で偉大な事業を成し遂げたわけではありません。そこには周囲の人々による指導や援助があります。当館は偉人を巡る「人物相関図」をできるだけ作成し、偉人を立体的に理解いただき、偉大な人物が多くの方々の協力で勉強したい方には各地の顕彰館や歴史博物館に向かっていただき、結果として県内の文化回廊づくりに結実することを願っています。

○支援に感謝：顕彰館、顕彰団体、図書館、郷土史家など多くの協力で3年目を迎え、この館報も発刊にこぎつけました。開館から3年間支援いただきたいと人物調査・研究のための図書館通り、各地へ作品借用展示のキヤブションづくりに明け暮れており、無理に無理を重ねておられます。

(武藤)

にいがた文化

ネットワーク協議会の活動

当館が開館した2か月後の平成25年8月、「にいがた文化ネットワーク協議会」は設立されました。その目標は、県内出身もしくはゆかりの深い文化的偉人を顕彰する施設や団体と連携しながら、各々の活動を全県的に動きとして、県内に文化回廊づくりを実現するためです。

年1回のペースで情報交換や展示に関する意見交換などのための会合を開いてきました。といつても現時点では緩やかなつながりを維持しながら、ネットワークに仕上げようというものです。

設立目的の通り、当館は、顕彰館や顕彰団体による出張PR展示を中心に、講演会などのイベント実施や、教育機関との連携、顕彰館などとの共同調査研究、機関誌発行などの活動を少しずつ進めております。

今年度から新潟日報、NST、BSN新潟放送のご支援で、企画展示の新聞広告やテレビ、ラジオのCMなど広報展開を始めました。文化的偉人の業績を普及できる良い機会となりますので、ぜひ出張展示をご検討ください。

■ 県内全中学校に40冊配本

昨年8月、中学生向けの副読本『み

んなで伝えよう にいがた文化の記憶』(A4判、191ページ、税込定

価1500円)を刊行しました。新潟県と新潟市の両教育委員会に約9000冊を買い上げていただきました。似顔絵や漫画入りで、親しみやすくしており、すでに各中学校に

40冊ずつ配布されています。大人が読んでも十分な内容なので、企業の社内研修用や待合室用などに利用されつつあります。購入ご希望の企業・団体はもちらん個人の方々も当館へご連絡ください。



利用案内

● 開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

● 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、展示替え期間

※施設の保守点検等のために臨時休館する場合があります。

● 入館料 一般 500円(400円)

学生(高校生以上) 300円(240円)
中学生以下無料

※()内は団体20名以上

※団体観覧は当館までご連絡ください。

※会津八一記念館と共に催する特別展観覧料は、上記の入館料と異なります。

※当館へは新潟日報メディアシップのエレベーターをお使いください。

交通のご案内

新潟駅からタクシー 約5分

徒歩 約15分

新潟空港からタクシー 約15分

● 時間貸し駐車場 220円(税込)/30分

○ 夜間最大 1,000円(税込)

(22時～翌8時)

● 時間貸し駐車スペースは3～4階(77台)

○ 万代シテイ共通駐車サービス券をご利用いただけます。

※当館では駐車場の無料券を発行しておりません。

※周辺には万代シテイ駐車場、朱鷺メッセ駐車場などございます。

TEL 025-250-7171
FAX 025-250-7040
<http://nmmc.jp>

